

予 算 委 員 会 会 議 録

- 1 日 時 平成28年2月26日(金曜日)
午前9時30分～午前10時15分
- 2 場 所 委員会室
- 3 出席委員 高木法生 委員長 下井克己 副委員長
竹岡昌治 委員 徳並伍朗 委員
荒山光広 委員 西岡 晃 委員
河本芳久 委員 岩本明央 委員
山中佳子 委員 三好睦子 委員
萬代泰生 委員 馬屋原 眞一 委員
俵 薫 委員 坪井康男 委員
猶野智和 委員 秋山哲朗 議長
岡山 隆 副議長
- 4 欠席委員 秋枝秀稔 委員
- 5 出席した事務局職員
石田淳司 議会事務局長 野尻登志枝 議会事務局係長
大塚 享 議会事務局係長
- 6 説明のため出席した者の職氏名
村田弘司 市長 篠田洋司 副市長
永富康文 教育長 田辺 剛 総務部長
大野義昭 総務部次長 細田清治 総務部次長
藤澤和昭 総合政策部長 三浦洋介 市民福祉部長
杉原功一 市民福祉部次長 西田良平 建設経済部長
白井栄次 建設経済部次長 奥田源良 総合観光部長
綿谷敦朗 総合観光部次長 山田悦子 教育委員会事務局長
末岡竜夫 教育委員会事務局長 久保 毅 会計管理者
倉重郁二 美東総合支所長 浜口賢真 秋芳総合支所長
松永 潤 消防長 有吉武士 消防本部次長
井上孝志 選挙管理委員会事務局長 竹内正夫 財政課長

佐々木 昭 治 企画政策課長 末 藤 勝 巳 農業委員会事務局長
小 田 正 幸 監査委員事務局長

7 会議の次第は次のとおりである。

午前9時30分開会

○委員長（高木法生君） おはようございます。昨日に引き続き、予算委員会を開会いたします。村田市長が出席されましたので、これから総括的に審査を行います。

それでは、議案第11号平成28年度美祢市一般会計予算を議題といたします。本案に対する質疑はございませんか。はい、河本委員。

○委員（河本芳久君） それじゃ、1点ほどお尋ね申し上げます。市長は28年度美祢市重点事業という形で、新規事業を大変たくさん盛り込んでおられる。しかも、観光開発に関わる事業もたくさん計画されております。

とりわけ私……昨日、秋吉台ゲートウェイ整備事業、このことについてお尋ねいたしました。まず、予算の計上されておるけれども、その位置について明確な答弁がございませんでした。私自身はこの秋吉台を整備することに、また、そういった施設を設置して観光客に楽しみ、喜ばれる秋吉台であってほしいと、そういう願いは常々持っております。秋芳町時代に長期計画というのを、ちょうど合併の前ですが、つくられました。その時に秋吉台においては、かつて昭和30年代当初の現状に復帰して保全を大優先すると。そのためには、若竹山荘という宿舎がございましたけれども、この施設の撤去をなされました。私はこれの撤去については、やはり何らかの他の用途に変更して、現状のやはりこの台上での憩いの場、または、交流の場にそれを存続すべきだと、こういう主張をしまいたけれども、これを公園化するというので、公園化されました。そのために今後、そういった台上に施設を設置することについては、特別天然記念物の特別保護区ですから、これは、非常に厳しい条件が付く。だから、既存のものを改築するとか、そういう、または、他に転用することについては厳しい条件はつかないが、一旦更地にしてしまったら厳しい条件がついて、なかなか許可できないと。そういうのが台上の、いわゆる保全の大きな観点になっておる。

だから、このことについて、昨日も新たな施設を設置するということになる非常に厳しい。既存の施設を改修してやられるのは、それは、それなりの許可が下りるだろうと。しかし、予算では4,100万というのが、もう計上されておる。その辺のところ、この位置なりまたは、国との折衝で若竹山荘跡地公園の中にそれを設置されるのか、その辺のところについて大変関心を、私自身じゃなくて、町民もこの観光開発に関わる人たちも関心を持っておられる。その辺について市長の見

解を尋ねたいと思います。

以上。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 河本委員のただいまの御質問ですが、今おっしゃいましたですね、秋吉台そのものが国定公園ですから、勝手にいらうということできません。という根源的な考え方の本は、やはり地球が生み出したすばらしい自然遺産を人の手によって、無作為に物事をしていっては、その遺産そのものを傷付けてしまうんじゃないかということがあろうと思います。その考え方は、我々が今目指して昨年の日本ジオパークになりましたけれども、ジオパークの考え方そのものと、全く一致をしておるということですね。

今、河本委員は旧秋芳町の町議会議員をされておられて、今美祢市議会議員です。旧秋芳町の時代のことをおっしゃいましたけれども、確かに秋吉台の上には若竹山荘という国民宿舎がありました。旧秋芳町が経営をしておられたということで、私もそこに行っているいろんな研修をしたりした覚えがあります。大変古いけれども、なかなか趣のある施設であったというふうに記憶してますね。今おっしゃいましたそれを撤去して公園、それから、今駐車場になっておりますね。その意味では、この秋吉台を楽しんでいただく、また、自然遺産を、また勉強する機会を得るための駐車場にもなってますしね。いいことになったんじゃないかというふうに思っております。

新しい施設をつくるということは、文化庁におかれて大変厳しい制約があります。国定公園ぐらいですから。それで、その意味においてゲートウェイ事業において、新しい施設を建立するということは、なかなか厳しいというふうに考えております。

したがって、現在ある施設等を利用させていただいて、我々が目指す交流拠点都市美祢、また、我々が目指す世界ジオパークのためにも、今後この秋吉台を中心とした大きな人の流れ、国内外から人が来ていただいて、すばらしい自然遺産、そして、ジオパークを見ていただくというために使っていきたいというふうに考えております。そのための予算を今回新年度予算で、提示をさせていただいたということです。

以上です。

○委員長（高木法生君） はい、河本委員。

○委員（河本芳久君） そうすると今の台上にある既存の施設に関わって、このゲートウェイ整備事業を推進されると、今こういう計画であるということでしょうか。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 先ほど申し上げたとおり、そういうふうに考えております。

○委員長（高木法生君） ほかに質疑はございませんか。はい、岩本委員。

○委員（岩本明央君） せっかく村田市長に来ていただいておりますので、私今回3回目です。3回目ですが、プライマリーバランスの件でお尋ねをいたします。予算概要書の4ページの上の円グラフ、それから9ページの上の円グラフ、それから16ページの基金残高の推移ということで、一般会計の上の表の右から2行目の取り崩しの見込みという欄と3つ関連しておりますので、お尋ねをいたします。

実は私、県内13市の予算書、今日最後、柳井市が載っておりました。全部切り抜いてやって資料を持っておりますが、プライマリーバランスの率が一番いいのは美祢市です。これは、表にもありますように、公債費が、これは借金の数ですが13.3%、それから市債、これが7.1%、差し引き5.2%の黒というのは、大変素晴らしい予算案だと思っております。

2年前に私がちょこっとこの件で聞きまして、去年は多少聞きました。この28年度につきまして、県知事も県の予算について、プライマリーバランスを改善していくということで、黒であれば市債残高がどんどん減っていくということになりますから、大変健全でいい予算案だと私も考えております。

ただですね、気にかかるのは、きのうも財政課長さんのほうから説明がありましたが、繰入金というのがございます。繰入金が全体の5.4%を占めておるわけです。プライマリーバランスだけで言いますと5.2%のプラスですから、158億円の5.2%の市債残高が減るわけですが、基金を取り崩して歳入に入れるとなれば、理論的には借金は減ったけど、貯金が減ったのうと、いうふうな感じがするわけですが、プライマリーバランスだけで見ると大変いいんですが、繰入基金を入れた場合は差し引きプラスマイナスゼロくらいかなという感じがするわけですが、今後の市長のお考えをお尋ねいたします。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 岩本委員、各市の新年度予算の財政収支に関わる表を切り抜

きをされて、勉強されておられると、大変関心いたしました。今プライマリーバランスという言葉が使われましたけど、日本語で言いますと、基礎的財政収支と言います。基本的な財政収支をいって、それがやっぱりしっかりしておらないと、その国にしる、県にしる、基礎自治体にしる、なかなか運営が難しい。そのプライマリーバランスそのものが、国が非常に厳しい状態にあるということで、非常に苦悩しておられるということが言えようというふうに思っております。

今、市の借金のことおっしゃいましたけれども、実はその我々が合併をして、今年で8年目を迎えますけれども、普通債と言います。これは、一般的な市の借金ですね。災害に関わる突発的な借金等は別にして、市の借金につきましては、この8年間で30数億円、実は減らしました。非常に財政的にはよくなったと。一方では、その基金に当たる、ですから、家庭で言えば貯金にあたるんですけども、これも30、確か6億円か、7億円、今年末に合併に比べて増えるようになってます。ですから、貯金と借金を合わせましたら、この8年間で70数億円の財政的なものがよくなったというふうに私は認識をしております。これは、市民の方々、それから議会の御理解もありましたし、また、市の職員も一生懸命やってくれたというふうに理解をしております。

今、繰入金で新年度予算の立て付けができておると、全体の枠がですね。だから、実際はこの貯金から取り崩して、この新年度予算の枠をつくっておるんじゃないかといふうにおっしゃいました。確かに形的にはそうなってます。平成27年、ですから今年度ですね、28年度じゃなしに、今年度の予算の当初予算も全く同様なやり方をやっておりました。というのが、実は地方交付税というのが国から入ってくるように、どこの自治体もありますけれども、その地方交付税が入ってくる額、総量ですね、これを過大に見積もっておりますと、通年をして予算を執行していく段階において、その部分が穴が空いてくるということが生じます。ですから、当初予算を立てる場合において、それぞれの自治体におかれて、その入ってくるであろう地方交付税の額をある程度低め——だから、固いということを財政的には申しますけれども、低めに見積ります。そうすると、プラスとマイナス、入ってくる金と出る金のバランス的にその部分を圧縮してますから、入ってくる地方交付税は小さくみてますんで、その部分を基金からの繰り入れという形で、当初予算上は枠をつくれますけれども、今年の平成27年度の今度は決算が、また今年の決算、議会に出

ますけども、最終的には逆に今美祢市は非常に健全堅調に財政運営やっています。財政規律をきちんと守っていますので、逆に基金のほうに基金から取り崩すんじゃなくて、結果的には基金のほうにお金を積むということが起こるといふふうに、私はもくろんでおりますし、また、そうなると思っています。でないと先ほど申し上げたように、合併以来8年間にですね。基金の額が実は20——合併前の平成19年が旧1市2町合わせて20億円ぐらいだったんですね。それが、現実的には今年度末には60億円、一般会計上ですね、なりますので、ボリュームとすると合併時に比べまして2.4倍程度まで膨らませてます。膨らませてるとというのが貯金をふやしました。ということは、毎年毎年当初予算上は固く見積っておるけれども、それがいろいろな努力によって、財政的にきちっと整理をされて、そして、余剰金はちゃんと貯金をしていった、これからくるであろう厳しい財政的な困難な道も待っています。合併算定替えでずっと国からの基金は減ってますし、地方交付税が、国勢調査がありまして、人口が減ってますから、併せてまた減ってくるということで。ダブルで、またトリプルで交付税減ってまいります。それに耐えられるように今、貯金をふやしてきたということでありますので、この財政規律をちゃんとしていかないと美祢市は大変なことになります。それができなくて今大変なことになってるのが、北海道のかつての産炭地である、お名前出して申し訳ないけども夕張市なんか、そういう状態が起こってしまったということですね。ですから、我々はそうならないように8年間——過去8年間努力を続けてまいりましたし、この28年度においてもそれはしっかりやれるようにちゃんと枠組みを組んでおります。

以上です。

○委員長（高木法生君） はい、岩本委員。

○委員（岩本明央君） 今市長から、歳入のほうの地方交付税、頂くお金を少なく見積もっておるといふような御答弁で、繰入金、基金の取り崩しは多分28年度、年度末には少なからうといふような御答弁がありました。大変結構だと思います。

で、実はほかの市を見てみますと、北浦三市が非常に、何て言いますか、自主財源が非常に低いんですね。1、2、3が北浦三市が占めております。で、いかにこの自主財源をふやすかによって、どうしていこうか、投資的経費のほうにお金が回れるんじゃないかちゅうことを考えております。で、下松市は自主財源が57%、一番低いのは長門市ですけど24.何%といふふうで、要は自分とこで入ってくる

お金が多いほど、市は投資的に長期的に使えるお金も多いということで、なると思
いますが、これから、特に美祢市が自主財源をどのような方向でふやしていられる
かということもちょっとお尋ねをしたいと思います。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 今自主財源のことおっしゃいました。一方では自主財源、一
方では依存財源と申しますけれども、自主財源の最も大きなもの、圧倒的にその自
主財源の中でボリュームを占めておるのが市税ですね。そして、一方では依存して
おる財源の中の圧倒的な大きな部分が先ほど申し上げた地方交付税ということ
です。

で、北浦三市、長門市、萩市、美祢市がこの自主財源が小さいということをおっ
しゃいましたけれども、これは人口規模が小さいということに直結しておるとい
うふうに御理解していただいて結構だろうと思います。どうしても市民税が、個人市
民税が小さくなりますし、それから人口規模が小さいところでは、いろんな会社が
投資的に会社を設置をして、事業を展開するということがやりづらいということが
ありますので、法人市民税も少ないということが起こってまいります。ですから、
自主財源そのものは小さくなると。

で、今ちょっと下松市のこと触れられましたけれども、下松市は単独、合併せず
に一市で運営をしておられますけれども、御承知のように新幹線、それから台湾新
幹線と造っておる日立があそこにございます。ですから、大きなお金が下松市に金
が入ってきておる。税として入ってきておると。また、そこに働いておられるた
くさんの方々が市民としておられるということで、個人市民税も大きいというこ
とで、自主財源比率が高くなってます。ですから、特異な状況があるということ
ですね。今度我々がこの自主財源比率を上げようとする場合、どうしても今も申し上
げたように、税のボリュームを大きくしていく必要があります。自主財源をあげるた
めに、さあ、市税の率を上げて、さあ、市民の方々負担を大きくして、多く収めて
くださいというわけにはまいりません。そうすると市は活力というか、経済効果が
非常に小さくなりますから、そういうわけにもいきませんし、皆さんがいろんな生
活もございますから、そうすると、どうしても人口をどういうふうにふやすかとい
うことになってまいります。だから、私がいつも申し上げておるように、これはト
ータルで考えないと、でき得るものではないということをお申し上げておるわけ
です。

ね。ですから、市の魅力を上げていくことによって、若い方々にとって美祢市が住みやすいとか、住んでみたいとか、そういうことを思っただく社会をつくっていかうと、それによって人の定着率を上げていくということ。

それとですね、一方では、この美祢市に来れば、非常に工場なり、また店舗等が展開しやすいとか、そういうふうなイメージを我々は発信をずっとして行って、その努力も続けていくということ。ですから、企業誘致なんかについても、いろんな形で今やっています。今も県外の企業と具体的にも2社、交渉を進めています。ただし、企業誘致は、さあ、企業誘致をすればいいんじゃないかということをおっしゃる方がおられますけれども、非常に難しいもんなんですよ。こういうふうな経済が、世界的な風によって、どんどん上がったり下がったりするような時代に、さあ、あなたのところにすぐ企業誘致するよと、企業として立地するよというような簡単なもんじゃとてもないんです。ですから、非常に丁寧に丁寧にその努力を重ねて行って、花が開くのが交渉を開始してから4年、5年とかいうこともあるんです。ですから、そのこともずっと水面下でやっています。ですから、いろんな形で政策、秘策を打つことによって、この美祢市に対して人が住んでいただけるという環境をつくるということ、これが、自主財源比率を上げる最も大きな効果を生むものであるけれども、一方では非常に困難にある。その努力は市民の方々、そして、議会の方々がそのことを御理解いただいて、市と行政とともに向かって進んでいく必要があるということをお理解賜りたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（高木法生君） はい、岩本委員。

○委員（岩本明央君） 私も全く同感でございます。ただ、岩国が意外と自主財源の比率が低いんですよ。それは、よく分かりませんが。それは別として。そういうこともあります。やはりさっき市長さん申されましたように、できるだけ、とにかく美祢市に住んでもらうて、私が思うに、住んでもらうて、私どもの集落のことをお話しますと、23戸あって兼業がほとんどで、山口、小郡に勤めて、給料をもらって、私の集落に住んでおるといのが大変多くて、美祢市内に勤める者があんまりおりません。そういうふうなことで、俗に言う外資を、外貨を稼いで美祢市に持って帰って、美祢市で税金を、市民税を納めてもらおうと、そういうふうなことを期待しておるわけですが、ぜひ美祢市もいろいろ市民の方から聞いておることもありま

すが、ぜひ健全な財政に向かって、今以上に努力していただくことを期待して、私の質問を終わります。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 今岩国のことおっしゃいましたけど、岩国は特異な例があります。岩国はやはり規模が大きいですから、定住人口も大きいです。ですから、その市税はボリュームがあるんですけども、一方で言う、先ほど申し上げた反対側の依存財源、そこにあたる部分は基地があるということですね。基地があることによって、その交付金、それから地方交付税が岩国はたくさん入ってまいります。ですから、それが大きくなるから、対比的に市税は太いけれども、それよりもっと大きな金が国から入ってきますんで、対比をさせると自主財源比率が小さく、見かけ上見えるけれども、非常にゆづらかな、豊かな市ということに御理解いただきたい。

それと、私のほうに自主財源比率を上げるために、定住人口上げるために努力してもらいたいとおっしゃいました。当然です。私、市のトップとして、当然一生懸命汗をかきますし、かいておるつもりです。議会サイドも先ほど申し上げたように、そのことは十二分に御理解いただいて、行政頑張れよだけじゃなしに、議会も議員の方々も共に汗をかく覚悟でやっていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（高木法生君） ほかに質疑はございませんか。はい、山中委員。

○委員（山中佳子君） 市長に2点ほど質問します。まず、この度3月で秋芳町内にありますスーパーが一店撤退するという話が伝わっておりますが、市のほうはどのような話を把握されているかどうか。

それからもう1点は、施政方針の中で市長は生涯活躍のまちということで、日本版CCRCの実現を目指すとおっしゃっておりますが、これのメリット、デメリットについて、お教えてください。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 今2点御質問があったと思います。秋芳にありますスーパーが撤退されるということ、山中議員が聞いておられるということ、私が知っておるかということの御質問だったと思います。これは、実際的には事業を運営しておられる企業体、会社のほうから、何らまだ市のほうに対して報告なり、それから、

意見、意志通達ありません。公式にですね。しかしながら、風聞っていいですか、そういう噂が出ておるということを私どもも若干耳にしましたので、早急に担当課長のほうに、先方のほうに調査に行かさせました。そうすると、まだ、会社そのものは正式にそれを外部に出していないと、一切出していないということですが、ただ、雇用しておられる従業員の方々に対して、ある一定の情報を流しておらないと、急に店舗を閉鎖するとかいう情報になると、それはやっぱり問題があるので、そのことを話しておるんで、それが洩れて広がったんじゃないかというふうな御説明でした。ですから、具体的なことについては、市に対してはまだ一切何の通知も伺っておりませんし、これから先、会社側のほうから恐らくあるでしょうけれども、それがいつになるかまだ分からないという先方の御返答であったことですね。そういうことです。

それともう1点のCCRCの問題ですね。山中議員、CCRCはどんな言葉の訳か御存じです。英語ですけど。御存じです。座りましょうか。どうぞ。

○委員長（高木法生君） はい、山中委員。

○委員（山中佳子君） 始めのCはちょっと分からないんですけど、2番目のCはケア・リタイアメント、最後のCもちょっとよく分からないんですけども、そういう意味だったと思います。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） CCRCですね。始めのCはコンティニューですね。継続的にとか、そういう意味ですね。次のCはケア、今おっしゃった通りですね。面倒見ようとか、いろんな介護をしようとか、そういう意味ですね。CCR、Rはリタイアメント、そして、最後のCはコミュニティですね。団体とか、村とか、それから、いろんな意味がありますけど。ですから、これ英語ですね。だから、会社なり、いろんなところで、いろいろ頑張っておられた方々がリタイアされた、そういう方々が、それからも継続的に生きていくための制度をやっていこうじゃないかと、皆やるじゃないかということ、これがアメリカ版のCCRC、アメリカ発祥の考え方ですので、CCRCという言葉が生まれたわけです。

この大もとが、実はアメリカは御承知のように、年金、それから、保険制度が日本ほど充実しておりません。国民年金なんか、アメリカ持っておられませんしね。ですから、お年を召された後、なかなか生きづらい社会、よっぽど、お金を自分で

持っておらないと、生きづらいという社会でもあるというところがあります。で、それが日本に入ってきました、このCCRCという考え方おもしろいんじゃないかということになりました。で、私どもは美祢市版、美祢版CCRCということを考えております。というのがですね、リタイアされた方だけではなく、確かに高齢の方、御高齢の方、たくさん美祢市は多いですから、そういう方々に生きがいを持って、豊かに生きていただきたいということはもちろんですけども、老若男女、ですから、お年を召した方であろうと、若い方であろうと、そして、さらには男性であろうと、女性であろうと、さらにさらに言うならば、体の心身が健全に生きておられる方も、それから、生まれつき心身が不都合があって生きづらい方もいらっしゃいます。また、若い頃は元気でも、お年を召されたら腰が痛い、足が痛い、歩けなくなった、また、認知が出ることもあります。そういう方も含めまして、我々は共に支え合って生きていこうじゃないかという考え方、これが、美祢版のCCRCとして今考えております。それは今日本の人口が大きく減ってきてます。御承知のようにね、山口県も減ってます。日本も減ってます。その中で、減る中において、大きくお年を召した方のボリュームもふえてますし、我々の社会というのは、地域社会というのは、それぞれが持つておるいろんな力があります。今議員の中に足を折られてる、おられる方もいらっしゃいますけど、不自由を感じておられるでしょう。誰かの手を借りないと生きては歩けないでしょう。そういうことですね。ですから、同じように我々はお互いに支え合って生きていく社会をつくろうじゃないかと、それを、口先だけじゃなしに行政として、ある一定の皆さんから頂戴をした税金をもって、税金を出される方、全部市民の方ですね。市民の方々がそういう立場になられることもあるし、また、人様を支えていくこともあるし、それは、お互いがお互いを助け合うということで、支えるほうが一方的にボランティアをしちよるとかということじゃなしに、支える側というのは恐らくそのことによって、何らかの事得ることがあるわけです。心の豊かさとかですね、お世話をさせていただくことによる喜びもあります。で、それを受けられる方にとっても、そのことによって生きやすいということがありますので、それをこの社会として構築していこうじゃないかということ。で、それをなぜしておるかということ、当然人間として、それは私はやるべきだろうと思ってますけれども。先ほど岩本議員の御質問にあったですよ、この美祢市に自主財源をふやしていったほうがいいんじゃないかということ

おっしゃいました。だから、私は先ほど申し上げたように、この美祢市が住みやすいということをもって、この地域が人口増に結びつく形をつくっていく必要があるということも申し上げました。この美祢市が日本の全国に先駆けてC C R Cの考え方、老若男女、心身が健全であろうと、何か不都合であろうと、共に生きていくという社会をつくっていくこと、それも、美祢市は今地球公園になりました。この地球公園という非常にすばらしいイメージの中で、それができておるまちであるということをもって、内外に発信をしていくこと、それによってこの地域に住み続けようと思っていただく若い人もふえるであるでしょうし、また今ね、2週間ぐらい前やったですかね、朝日新聞に総務省がやっておる移住ナビというのがあります。ポータルサイトが。そこで、全国から数百ですね、500近かったと思いますけれども、自治体が移住に関わるナビ、ですから、アニメーションとかいろんなものを募集を、総務省されましたんで、それを大きなポータルナビをつくっておられます。そこにアクセスした数は、実は、この美祢市が全国で第5位になりました。全国ですよ。山口県じゃもちろんトップです。それほど今美祢市は地球公園、ジオパーク、それから、C C R Cも頑張っておるんじゃないかということで、全国から興味を集めておる。今移住したいという若い方たくさんいらっしゃるんです。その方々の目にどんどんどんどん触れておるということ。それを、発信していくことによって、この地域の定住人口ふやそうじゃないかということやっておるわけですね。そういうことで、大きなメリットがあります。

ただし、今デメリットとおっしゃいました。でも、それをするためには、不断の努力がいります。だから行政も、それから議会も、そして、市民の方々も共にそのことを考えてやっていく、心を一つにしていくという努力がいります。それには、大変なエネルギーがいります。それができない限りこのC C R Cは実現できないと思ってますので、何だC C R Cなんか、すぐ金にならんじゃないか、止めとけ、止めとけというふうな心になってしまいましたら、このすばらしい地域社会は実現できない。その分がデメリットと言えデメリットでしょうけれども、私は努力によってそれは成し得るというふうに確信をしております。

以上です。

○委員長（高木法生君） ほかにございませんか。はい、三好委員。

○委員（三好睦子君） お尋ねいたします。市長の施政方針の6ページにあるんです

けれど、この中に「批判だけに明け暮れ、建設的、創造的な意見は出さない。そういう態度は国民に対して無責任とも言うておられます」——これ全文が安倍首相さんだと思いますが——国民という文言を市民という言葉に置き替えれば、まさに私が合併後の市政運営の基本姿勢として意識し、努めてまいった軸と同じであります」とあります。これで思うんですが、国会においては、我が党の、共産党を含む野党が国会において討論しています。これは、国政に対して国民の暮らし、平和、命を守るための討論と思います。これを批判と受け止められていることは、本当に悲しいと思います。共産党を含む野党は、国会での討論の中で建設的な意見、提案も出しています。特に共産党は提案をたくさん出しております。市長さんは、この基本的姿勢と、この6ページの基本的姿勢として意識し、と言うておられます。特に私かもしれませんが、議員において議会で発言することを批判と受け止めておられるのでしょうか。お尋ねいたします。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 三好議員、安倍総理がおっしゃいましたことですね。それが、相手がどなたかと、今三好議員のお考えでは共産党ということをおっしゃいましたけど、共産党は一生懸命今やっておられるじゃないですか。私も全く否定はいたしません。一生懸命やっておられると思いますよ。三好議員も今市議会の中で一生懸命やっておられるじゃないですか。私も大変すばらしいなと思ってますよ。

で、あの三好議員ね、市議会の方々が議会の中で意見を述べること、市長がこれはいけん、意見を述べちゃいけんと思うちよるんじゃないですかというふうなニュアンスの聞き方、お伺いをされたと思うんですが、全くそれはありません。市議会というのは、議会の方々がそのいろんな議論を重ねられるところ、そして、一方では、市長たる私と意見を交わしながら、美祢市の未来に向かって新しいものをつくるとか、そして、いろんなこと軌道修正するんであれば、そのことを検討、議論をしていこうという場であると思ってますんで、その意味で言えば、非常に建設的というか、前向きな議論というのは、どんどんどんどん私はするべきだろうというふうに思ってます。ただしかし、批判のための批判っていいですか、言葉がですね、そういうことはやっておると、これは古今東西まで歴史が証明してますけどね、そういうことに陥ってしまいますと、未来がつかれなくなってしまうよということ私を私は施政方針の中で申し上げたと思います。

だから、建設的ないろんな議論を交わしましょうよと。ここは躍動的で、そして、市民の方々が見られても、よし議論が白熱した、議会が白熱した議論をしてるなど、美祢市の未来のために頑張ってるなというふうな思いを持っていただけるような、私は議会の方々と議員の方々と議論を交わしていきたいなと切に願ってます。

以上です。

○委員長（高木法生君） はい、三好委員。

○委員（三好睦子君） ありがとうございます。私は、この6ページの文言を素直に受け止めましたので、意見を述べさせていただきました。

○委員長（高木法生君） ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（高木法生君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、本案に対する御意見はございませんか。はい、三好委員。

○委員（三好睦子君） この予算に対してですが、予算について反対をいたします。この予算の中には、二つの病院を存続させていただく、存続して市民の命を守るという面でも、そして、いろんな面で私たち市民の願いが、要求が実現している施策もたくさんあります。本当にありがたく思います。

そして、中でも進展したものがありません。それは、ここにありますように、子どもの医療費、小学校卒業するまで無料になりました。これが、進展だと思えます。ありがとうございます。しかしながら、この私たちは中学校までに拡大していただきたいと思っております。

そして、このさらに言いますと、この所得制限があるわけですが、この所得制限も撤廃していただきたいと思えます。全ての子どもに医療費が無料になっていくような予算であってほしかったです。子育て環境において、他市をリードしていくと、市長さんの施政方針の中にもあります。他市をリードしていく、その言葉は本当に嬉しいんですが、所得制限があるということは、どうかと思っております。これからも、他市をリードしていくような予算であってほしいと思えます。

それから、移住、定住に関して、たくさん予算が盛り込まれておりますが、今この美祢市に住んでいる人たち、この人たちが出ていられないようにするための施策を考えてほしいと思えます。そして、その美祢市に住んでよかった、こういったことを一番実感されるのは、ああ、美祢市はすばらしい、こんな市政がある、政策

があると、それを知っておられるのは、他市に住んでおられて、美祢市に働きに来ておられる方が一番実感できることと思います。その人たちが美祢市に住んでいただけるような施策である予算だと、本当に残念に思います。そういう点で配慮していただいた予算であるべきではなかったかと意見を述べます。

○委員長（高木法生君） ほかに賛成の意見はございませんか。意見なしといたします。

それでは、これより議案第11号平成28年度美祢市一般会計予算を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（高木法生君） 挙手多数であります。よって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本会議で本委員会に付託されました議案2件につきましての審査を終了いたしました。

その他委員の皆様から何かございましたら、御発言をお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（高木法生君） ないようでしたら、これにて本委員会を終了いたします。御審査、御協力、誠にありがとうございました。お疲れ様でございました。

午前10時15分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成28年2月26日

予算委員長

高木 法生